第１回みやぎ観光振興会議大崎圏域会議

【日時】 令和８年１０月２７日（火）午後1時３０分 ～ 午後3時

【場所】 グランド平成 ２階 鳳凰の間

【委員からの主な意見】

（１）宿泊税を活用した今後の観光振興施策について

（委員１）

○ 資料９ページの「観光人材の確保と育成及び外国人スタッフの雇用の支援」について、弊社も４月から大崎にある日本語学校の卒業生の台湾人を雇用している。この雇用支援に関して、人件費の補助や教育等、具体的な支援について教えてほしい。

【事務局回答】

・現在は先進事例のセミナーや職場見学会、インターンシップのマッチングを実施。

・来年度は専門家による伴走型支援の仕組みを検討中である。

（委員 2）

○ 大崎圏域に観光事業を行き渡らせるにあたり、東から西につなぐインフラの整備が遅れているために、行き渡らせることがなかなか難しいという感覚がある。

○ 国が進める石巻・酒田間規格道路というのは、観光に対しても、万が一の女川原発の事故に対しても必要なインフラだと思うので、観光を絡めたインフラ整備も県として考えていただきたい。

（委員 3）

○ 二次交通対策ということで、JR さんを使った周遊がメインになってくると思われるが、それだけでは時間的な部分などで観光のお客様の時間が制限されてしまう。それに代わるものも考える必要があるのではないか。

○ 道の駅ではレンタカー会社さんと連携でクーポン事業をやっているが、そういった付加価値のある二次交通対策を考えていただけるとよいのではないか。

（委員 4）

○ 来年の１０月から１２月までデスティネーションキャンペーン（ＤＣ）のプレキャンペーンが開催され、2028 年が本番ということになる。首都圏を中心に相当のお客様が仙台・宮城に来られるということが期待されるため、ぜひ地域と一体となった取り組みを推進していきたい。

○ 資料１０ページにある欧米豪をはじめとする海外新規市場向けのプロモーションの強化」について、この「新規市場」というのはどのあたりを強化していくご予定なのかお聞かせいただきたい。

【事務局回答】
・欧米豪市場は長期滞在による高い消費額が期待できるため、パリの派遣研修員を起点にフランス等への発信を強化している。
・県内でオルレの整備を先行させていたが、韓国など、今まで着手が十分でなかった市場へのプロモーションも強化する予定である。

（２）大崎圏域における宿泊税活用事業の進捗状況について

（委員 1）
○ 今回のモニターツアーは、来年以降の自走化に向けた調査的な位置付けもある。
○ 潟沼ナイトレイクツアーに関しては、欧米豪のランドオペレーターを通してすでに申し込みがある。テレビ局の取材もあった。涌谷の箆峯寺（修行ツアー）は、河北新報に大きく取り上げられ、反響があった。来年以降の自走化に関して手応えがあると思っている。
○地域の食材、文化や暮らし（テロワール）を通しての体験という位置付けでのアドベンチャーツーリズムとしてこの事業を進めている。
○ 来年 2 月に宮城で開催される ANTA（全国旅行業協会の全国大会）で PR コーナーを持つ。
○ 日本旅行業協会（JATA）が地方分散型の旅行商品作りを実施することが発表されている。一弾目のディスティネーションとして、東北を取り扱うというような形で話を受けている。

（３）その他

（委員 5）
○ 観光コンテンツ造成等支援事業補助金について、事業計画の概要レベルのシートを作成し、そこを埋めながら話を進めていくようなイメージで、事前指導を受ける機会を設けてもらえないものか。
○ 夏場の涼しさや、雪、伝統文化、食、農林水産業を活用し、スポーツや文化系の教育合宿を誘致するようなコンテンツは対象に含まれないのか。
【事務局回答】
・申請にあたり事前相談があれば受け付ける。申請の流れについては今後検討する。
・形としては合宿であるが、観光の視点があるということを申請書に記載いただければ補助対象になりうる。

（委員 6）
○ 二次交通に関して、レンタカー割は非常に効果的な施策だと感じるが、一方で運転されない方もいる。インバウンドのオーストラリアやヨーロッパの方からは周遊バスというよりはタクシーのようなものが好まれるのではないかと思う。そういったところもぜひ後押ししていただきたい。